

http://www.asahi.com/and_M/interest/bcnnews/Cbcn2016092303.html

「NetEvents」がカリフォルニアで開幕、AIの可能性をアピール
23/09/16



[PR]

【カリフォルニア発】ICT 関連ベンダーやクラウドサービスプロバイダ、関連団体などが集まって、ネットワークの現状や可能性を議論するイベント「NetEvents Global Press & Analyst Summit」が9月21日（米国時間）、米国・カリフォルニアで開幕した。9月22日まで開催。イベントには約100人が参加した。

NetEventsは1996年に始まり、今年で20周年を迎えた。その節目の年である今回のイベントの基調講演では、二人のキーマンが登壇して一つのテーマに対して、それぞれの考えをアピール。これまでは一人が基調講演を行っていただけに、趣向を凝らした基調講演となった。

基調講演のテーマは「AI（人工知能）」で、AIが研究の枠から抜け出して、ネットワークやサイバーセキュリティでどのように活用されているかについて説明。まずは、米ファスト フォワード ラボのキャサリン・ヒューム社長が登場。同社は、リアルタイム計算とデータサイエンスの技術を生かした製品・サービスを提供している。SF映画では夢物語のように描かれているAIについて、ヒューム社長は「人間がこれ

まで考えていたスピードやレスポンスを覆すものであることは確かだが、（人間が）いかに上手に生かして変化に対応できるかが重要になる」と説いた。

次に、米サイランスのスチュアート・マクルーア CEO が登壇。同社は、AI と機械学習技術を利用したエンドポイント・マルウェア防御製品を提供しているベンダーだ。マクルーア CEO は、「最近では、AI が音声認識やネットワーク管理、サイバーセキュリティを網羅している。加えてデータ収集、アルゴリズムサイエンス、機械学習、パターン認識、ファジィ論理などで、さらに実践的になっている」と訴えた。（佐相彰彦）